



「秋田の学力の秘密」は何か？ ～1年間で学んだこと～

1年間の長期研修を終えるに当たって

応援練習での課題・改善点は…

「秋田の学力の秘密は何だろう？」という問いをもち続け、能代市立能代第二中学校で勤務してきました。

右の写真は、体育祭の応援合戦の練習の一場面です。リーダーが司会をして案を募ったところ、生徒からあふれるようにどんどん意見が出てきました。振り付けや掛け声、隊形を話し合っって創り上げていく姿に圧倒されました。

その後も、様々な行事等の中で「よりよい学級CMをつくるには？」「いらっしゃるお客様を喜ばせるには？」など、課題に向かって生徒が主体的に「協働と創出」する姿が見られていました。この生徒の姿は、小学校時から各教科等の中で、「見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「伝え合う」ことを繰り返したことによって培ってきた資質・能力だと思います。

自分の問いに対する「答え」となると考えられる取組について改めて振り返ります。



① 校内研究の充実

(県外レポート通信 No.3 , No.5 参照)

能代第二中では、県・市の重点を踏まえた研究主題・重点(共通実践事項)を設定し、年5回の授業研究会を「単なる授業の評価の場」にせず、各教員が「自分自身の実践を振り返り、課題を見つける検証の場」にしています。今年度の最終回では次年度に向けての方向性を見出す協議がなされるなど、授業改善のPDCAサイクルが確立されているので、全教科の教員の授業力向上につながっています。



研究主任 + 研究推進部の戦略が重要です。



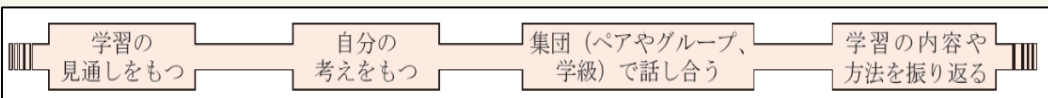
毎回の授業研究会が自分の授業を見つめ直す機会になりました！

② 機能する「秋田の探究型授業」

(県外レポート通信 No.7 参照)

「秋田の探究型授業」の基本プロセス

引用:「学校教育の指針 令和5年度の重点」(秋田県教育委員会)



秋田県の教育課題である“「問い」を発する子どもの育成”を実現するために、各教員が「秋田の探究型授業」の基本プロセスを往還させながら授業づくりを進めています。校内研究を充実させている成果として、普段の授業において、生徒が学習課題やめあてを設定し、自分の考えを伝え合う授業が実践されています。「よい授業とはこういう授業だ」という共通認識があることが強みです。



「型」ではなく、基本プロセスが機能しているのかを意識することが大切だと思います。

捉え方が同じだから、校種や学校が違ってても、同じ実践ができます。

最後に

岡山県でも、授業改善の風土の中で、教育課題(夢育・岡山型PBL、非認知能力の育成等)の解決に向けた取組を進め、小中高とそのバトンをつないでいくことで、児童生徒が自らの資質・能力を活用して主体的に課題解決していく力を育成できると思います。岡山と秋田の共通点である「教育への情熱」を胸に、長期研修で学んだことを生かし、これからも、子どもたちの未来のために尽力したいと思います。

